



**HARVARD Kennedy School**  
JOHN F. KENNEDY SCHOOL OF GOVERNMENT

# *Korea Japan Trip 2008*

## *実施報告書*



2008年5月12日  
Harvard Kennedy School  
Japan Caucus

## 1. 支援者の皆さんへ

このたびは、Korea-Japan Trip 2008 へ多大なるご支援を頂き誠に有難うございました。皆さんから頂きました温かいご支援のお陰で、無事トリップを成功のうちに終わらせることができました。

「将来、それぞれの国を背負って立つハーバード・ケネディスクールの学生達に日本をより深く、様々な角度から理解をしてもらう機会を提供するとともに、日本人・韓国人の協働を通じて、日韓双方の理解・友情を深める」

との目的の下、ハーバード・ケネディスクールからの協力も頂きながら毎年3月末の春休みの期間を活用して実施しております本トリップは今年で3回目となりました。3月21日(金)から29日(土)の約一週間にわたって実施した今回は下記の国々から総勢42名(参加者・幹事双方を含む)の学生、及びその家族・友人が参加を致しました。

アメリカ(14名)、カナダ(3名)、ドイツ(2名)、インド(1名)、  
インドネシア(1名) オーストラリア(1名)、シンガポール(1名)、  
中国(1名)、トルコ(1名)、ベルギー(1名)、香港(1名)、  
レバノン(1名)、韓国(8名)、日本(6名)

参加者のほとんどが日本・韓国を含め東アジア地域へ旅した経験がなかったこともあり、参加した全員にとって貴重な学びの機会に満ち、また卒業後も長く続く友情を培うことの出来た素晴らしいトリップとなりました。

一方で今年は原油高による飛行機代の高騰、トリップの直前に発生した円相場の高騰、さらにアメリカから日本へと渡航する際に発生した様々な航空会社の不手際等により、思いがけない費用が数多く発生し、これまでになく厳しい運営を迫られたトリップでもありました。

こうした厳しい状況にありながらも、トリップを成功に終えることが出来たのは、偏に支援者の皆様からの温かいご協力があったからに他なりません。この場をお借りして改めて御礼を申し上げます。本報告書はこのトリップを企画致しました私たち Japan Caucus (ハーバード・ケネディスクールの日本人会) から皆様への感謝の気持ちと致しまして、トリップの様子や参加者の声をお届けするために作成致したものです。ご送付がこのように遅くなってしまったことをお詫び申し上げます共に、皆さんにお目を通して頂ければ幸甚です。

2008年5月12日(月)

Harvard Kennedy School Japan Caucus 代表  
池田洋一郎

## 2. トリップの行程

今回のトリップは3月21日(金)から30日(日)のハーバード・ケネディスクールの春期休暇を活用して実施いたしました。このうち、日本には22日(土)の夜から26日(水)の午前中まで滞在し、残りは韓国ソウルに滞在いたしました。日本滞在中は下記のとおり硬軟双方のイベントを織り交ぜることで、参加者に短い期間で出来る限り多面的に日本を理解してもらえよう心がけました。

日程	主な行程・写真等
23日(日) 広島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原爆ドーム、平和記念資料館見学</li> <li>・秋葉広島市長との面会・被爆者(松原美代子さん)との面会</li> <li>・厳島神社見学・旅館(宮島グランドホテル有もと)滞在、温泉体験</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>被爆者の方に感謝のメッセージとともに記念品を贈呈する参加者</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>浴衣に身を包み、初めての日本風旅館と日本食に興奮する参加者達</p> </div> </div>
24日(月) 京都	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金閣寺訪問、</li> <li>・日本酒造(月桂冠大蔵記念館)見学</li> <li>・清水寺訪問、</li> <li>・祇園地域散策</li> <li>・日本風料亭で芸者を招いての夕食</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>日本酒造で乾杯。 伝統の味を堪能する</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>京都文化の象徴、芸者さんの夕食。帯の長さから芸者さんの日常生活まで様々な質問が飛び出しました</p> </div> </div>

日程	主な行程・写真等
<p>25日(火) 東京</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 築地市場見学、・ 浅草観光</li> <li>・ 駐日米国大使シーファー氏との面会</li> <li>・ 明石康元国連事務次長との面会</li> <li>・ 町村官房長官との面会、・ 高村外務大臣との面会</li> <li>・ 塩崎元官房長官との面会、・ レセプション・パーティ</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>本場日本のお寿司を楽しんだ早朝の築地市場。やはりカリフォルニア・ロールとは比べ物になりません。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>米国大使館ではシーファー駐日大使と北東アジアの安全保障や日米関係等について活発な議論が交わされました。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>美しい総理大臣官邸で町村官房長官と記念撮影。対談では日本での女性の社会・政治進出や日米の政治文化の違いなどについて議論が交わされました。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>明治記念館でのレセプション・パーティ。OB/OGの皆さんからの贈り物の日本酒を鏡割り。パーティには塩崎前官房長官、林芳正参議院議員、大塚拓衆議院議員等大勢のケネディスクールOB/OGが駆けつけて下さいました。</p> </div> </div>

### 3. 参加者の声

1) 下記は皆さんからのご支援により実現した Korea-Japan Friendship Fund の受賞者である Devpriya Misra 君(インド)が作成したトリップを振り返ってのエッセイです。

#### Korea-Japan Trip 2008 一参加者の視点から

Devpriya Misra

ハーバード・ケネディスクール

公共政策修士課程

(日訳：池田洋一郎)

日本について

建築を学んだ私にとって、日本の地に降り立つことができたのは、東洋の建築物を目の当たりにできる素晴らしい贈り物に他ならなかった。私をかつて鼓舞した偉大な建築家の一人フランク・ロイド・ライトの建築物、伝統的な広島、宮島の建築様式、東京の近代的な建物、あるいは関西空港を支える技術・・・これらを体験する機会に私は恵まれたのだ。関西空港を支える驚嘆すべき技術水準については、1.7キロにも及ぶ人口の“浮島”に一日10万人もの乗客を扱うことのできる容量を6千人のマンパワーでわずか3年で作り上げたという驚異が、日本人の仲間たちの間であまり知られていなかったこともまた驚きであった。

宮島では日本でもっとも賞賛されている風景美、美しく彩られた大きな鳥居が波間にたたずむ有名な厳島神社と出会うことができた。こうした風景に魅了されただけでなく、美しい鹿たちが参道を行きかう姿もまた印象的であった。宮島に滞在中に泊まった伝統的な旅館の温泉は非常に興味深い経験であった。太平洋を跨ぐ長旅から私の心に活力を与えてくれた温泉はまた、トリップに参加した仲間との友情を深めてくれる場所でもあった。

息を呑むようなスピードで走る新幹線で移動する間、私はこの国は第二次世界大戦後、向かう方向を変えたのだということに改めて思いを致した。広島はまさに平和と力(Power)の象徴のような場所であった。日本人は戦後、力(Power)の追求を捨てたといわれるが、私はむしろ、日本人は追及すべきパワーを再定義し、時間に対する厳しさや素晴らしい品質や技術によって支えられる力強い経済を目指してきたのだと気付いた。私はまた、インドが日本に匹敵するインフラを提供できないか夢見ている。無論この夢は現実とは程遠い。しかし、私はいつの日か達成できると信じている。日本の成功を見ているとインドの夢の達成に希望が湧いてくるようだ。しかしそのためには、インド人は日本人一人一人が持っている

労働倫理、アートのような完璧さを目指して職務に当たる職業人としての姿勢を育てていくことがまず必要だと思っている。

このトリップは日本の様々な省庁出身の日本人幹事と交流できた素晴らしい機会でもあった。なぜなら、彼らは日本がなぜ自国を変革することができたのか、あるいは日本のさまざまな政策やコンセンサスを重視する意思決定が日本の成長にどのような役割を果たしてきたかについて、自分なりの見解を語ってくれたからだ。私はこのトリップの間、ずっと興味深々で多くの質問を投げかけ続けたが、彼らからの答えを聞くことで、私の国、インドが将来どのように前進することができるか、自分の中で頭の体操をすることができたのだ。

しかし、このトリップの中で私の注意を最も引いたのは日本、あるいは東アジア地域における超大国としてのアメリカの影響力の強さである。やや言いすぎと感じられる方もいらっしゃるかもしれないが、アメリカにいても気付かない程強いメッセージを受け取ったのだ。インドではアメリカの影響は比較的最近のもので、また限定的でもある。しかし、アメリカの駐日大使、あるいは日本の外務大臣との対話の中で、私はアメリカという存在が日本の政府高官のマインドのかなりの部分を占めていて、日本や東アジア地域の政策の方向に大きな影響力を及ぼしているのではないかと感じたのである。

一方、日本は私にとって平和と調和の象徴のような国である。技術分野では最高峰の品質を保ちつつ、その豊かな伝統的な文化を誇りを持って保持しているさまざまな顔を持つ国である。

#### 幹事・そして支援者の皆さんへ

このトリップについて思いをめぐらすたびに、旅を創ってくれた幹事の努力が目に見えてくる。このトリップのもっとも大切なポイントは私たちが経験した素晴らしい日韓の歓迎であった。私が思い出す幾つかの特別な思い出をシェアしたい。一つはアメリカから日本への飛行機が遅れ、トリップの旅行日程に大きな影響が出たときの事。私は、日本人の幹事の皆が夜を徹して、私たちが当初どおり素晴らしいトリップを経験できるよう努力してくれた様子を目の当たりにした。彼らは、私たち一人一人が短くなってしまった日本での滞在期間を十分に楽しめるよう、必死の努力をしてくれていた。また韓国で、幹事のお母さんたちから受けた素晴らしい愛は忘れることができない。異国にいながらまるで自分の家にいるような、そんな気持ちにさせてくれた幹事の皆さんにお礼が尽きない。

ベジタリアンである自分にとって、日本・韓国は食生活において難しい地域でもある。それでも、私は日本のお煎餅をデパートの試食コーナーで楽しんだり、またスパイシーなキムチを韓国で楽しんだり、9日間を大きな問題なく乗り切ることができた。

このトリップは本当に素晴らしいものであったが、これは共に過ごす中で友情を培ったハーバード・ケネディスクールの仲間たち、そして非常に手の込んだ計画で最高のトリップを創ってくれた日韓幹事の皆の超人的な努力のおかげである。余談であるが、自分は一度東京で道に迷って皆から逸れてしまった。日本語がわからないまま色々と彷徨った時間は、振り返ってみると最もエキサイティングな経験だったといえるだろう。

太平洋を越えて大学に戻った今、私はこのトリップの幹事の皆、そしてスポンサーとなって下さった方々への感謝の念が絶えない。何よりもまず、経済的に困難な自分にとって、このトリップへの参加は両国の皆さんから頂いた寄付による「Korea-Japan Friendship Fund」なくしては実現不可能だった。日本・韓国へと旅することを夢見てきたケネディスクールからの参加者は皆、日韓幹事の努力とスポンサーの皆様からのご支援によって、その夢をかなえることができた。心を込めて、お礼を申し上げるとともに、誰かの夢をサポートするというこの素晴らしい伝統が続いていくことを願っている。

私は、このトリップを通じて、素晴らしい友人を作ることができ、そして母国インドのために幾つもの新しいアイデアを得ることができた。本当にありがとうございました。

2) 下記はトリップの期間中、あるいは終了後に参加者から寄せられた日本についての主な感想です。

- － 東京と京都に見られる技術・経済大国と文化大国のコントラストが素晴らしい。
- － 東京は世界の他の大都市に見られないほど、きわめて洗練されている、恐ろしく効率的な町であると感じた。
- － 行き交う日本人が皆、道などを尋ねた際、非常に親切であった。
- － 公共交通機関が極めて高度に整備されている。
- － 訪問するには素晴らしい国だが、住むには言葉や文化の壁が高く困難が多そう。
- － 地下鉄の中で人々が皆静かに手元の何か(読書・携帯電話)に熱中している姿が印象的であった。
- － 駅のトイレや新幹線の座席など、さりげなく、隅々まで様々な配慮・工夫がなされている。

(以上)

以上で報告を終わります。最後まで目を通していただき有り難うございました。内容につきご質問がございましたら、下記までご連絡をいただければと思います。改めまして、今回は Korea-Japan Trip への多大なるご支援、誠に有り難うございました。

Harvard Kennedy School Japan Caucus 代表  
池田洋一郎